祝 開校50周年　50ème anniversaire, depuis1973

日仏文化学院

パリ日本人学校

「あ・な・た」を大切にする 心のふるさとパリ日

校　訓

明るく
仲よく
たくましく

令和5年度 学校だより
第7号 10月2日発行

10月1日 創立記念日 祝50周年 新たなスタートへ!

～ 6日記念式典・7日「パリ日祭」実施～

【写真 右上から「1973年10月1日開校式」「トロカデロ校舎」「シュレーヌ校舎」「サンカンタン校舎」】

昨日、10月1日に、本校は開校50周年を迎えました。

1973年（昭和48年）トロカデロ校舎で産声を上げ、1984年（昭和59年）シュレーヌ校舎に中学部が移り、1990年（平成2年）ここサンカンタン校舎に移転してから30年以上が経ちました。半世紀に及ぶ歴史の中には、様々な出来事があり、その時代ごとに在籍した児童生徒の皆さんや保護者の皆様、在職した教職員の様々な思いが詰まっていることと思います。

さて、10月6日には記念式典が行われます。パリ日を支えてくださっている多くのご来賓や保護者の皆様とともに50周年を祝います。式典では、校長の式辞の他、駐仏日本国大使やモンティニー市長、理事長からの祝辞があります。また、50年を振り返るスライド上映や、日本の伝統芸能である狂言で、おめでたい席で上演される「菊の舞」をパリ在住の狂言師の方に上演していただきます。

さらに、式典で歌われる校歌は、これまで斉唱だけでしたが、50周年を機会に本校卒業生の音楽家の方に編曲していただき、3部合唱として初演します。

校長室からは、時々各教室で校歌や日仏両国の国歌を練習する歌声が聞こえてきます。記念式典に向けて、日ごとにお祝いのムードが高まる様子が伝わってきます。

また、7日の「パリ日祭」の準備も着々と進められていて、「発表の部」で披露する出し物の練習の様子が伝わってきます。音楽やセリフが聞こえてくるとこちらもワクワクした気分になります。きっと満足のゆく発表ができることでしょう。

様々な学校の歴史の中で、50周年という節目の時に在籍している機会に恵まれたのは、幸運なことかもしれません。私たち教職員もその幸運を実感しながら、日々準備にあたっております。親師会の皆様には「パリ日祭」のために、長い期間準備をしていただいております。保護者ボランティアとしてご参加くださる方々も含めて、当日はどうぞよろしくお願いいたします。では、50周年記念行事に向けて、全校児童生徒や保護者の皆様、教職員で共に力を合わせていきましょう。

ラグビーワールドカップ2023 日本代表に応援メッセージ届けました！

　現在ラグビーのワールドカップがフランスで開催されています。（期間は９月８日から１０月２８日まで）これに向けて、１学期の終わりに全校児童生徒が日本代表へ向けて応援メッセージカードを書きました。

　一人一人のカードを綴じて１冊にしたものと、中学部３年生を中心に日本国旗にメッセージを書いたものを用意しました。それに全校児童生徒の写真を加えて、９月１０日（日）、トゥールーズの競技場で、日本の試合の前に本校西澤理事長からナショナルチームディレクターの藤井雄一郎様に届けていただきました。

　メッセージ効果か、チリ戦では見事な逆転勝利、イングランド戦は残念でしたが、サモア戦でも素晴らしい戦いを見せてくれました。残りの試合も全力で戦ってほしいですね。

世界遺産「ベルサイユ庭園」 小学部秋の遠足実施

　９月１８日（月）、小学部の秋の遠足がベルサイユ庭園で行われました。前日の夜間にベルサイユ地方は雷雨となり、実施が危ぶまれましたが、幸い好天に恵まれて無事に全日程を終了することができました。今回の遠足は、パリ日の特色である「縦割り班活動」で実施しました。午前中は、６年生をリーダーとする１２の班が、広い園内をウォークラリーで駆け巡りました。各ポイントには様々な課題が用意されていて、班でまとまって課題にチャレンジしました。

　終了後はお弁当タイムとなり、班ごとに仲良く美味しいお弁当をいただきました。その後は班ごとに遊びの時間となり、歓声を上げながらそれぞれのゲームを楽しみました。上級生が下級生を大切にするパリ日の伝統が、見事に受け継がれた遠足となりました。

避難訓練実施 ～火災を想定～

９月５日（火）、調理室から出火という避難訓練を実施しました。指示の放送がよく聞こえないという課題も出ましたが、原則として「出火場所には近づかず、安全に避難できる経路で逃げること」が改めて確認されました。また、避難時の約束「お・か・し・も・ち」の確認や、煙に備えて「低い姿勢を保ち、ハンカチ等で口や鼻を押さえて避難」も確認されました。教職員としては、最後に電気を消し、窓、扉を閉めてから避難することも確認しました。

災害は「いつ・どこで・どんな形」で起こるか分かりません。しかも、私たちはフランスにいます。日本の常識がそのままあてはまらない場合もあります。私も夏にロンドンの地下鉄で下車した直後に非常放送が流れ、乗客が一斉に地上に避難する体験をしました。結果として誤作動でしたが、英語の放送でもよく聞き取れず、これがフランス語の放送の場合どうなるだろうかと不安になりました。ぜひ、ご家庭でも様々な「もしも」の行動について、話題にしていただければと思います。

中学部 中間テスト実施

９月２１日（木）～２２日（金）、中学部の中間テストが実施されました。普段は明るく無邪気で元気な中学部の各教室が、それぞれ真剣なムードに包まれていました。特に中学部３年生の教室に入った途端、かなりピリッとした空気が伝わってきました。テスト終了後には、また元の通りの中学部に戻っています。オンとオフの切り替え、メリハリのついた中学部の行動がすばらしいと思います。

小学部１年生 生活科見学 ガリ農園へ

９月２７日（水）、小学部１年生が生活科見学としてガリ農園を訪れました。昨年はあいにくの雨に見舞われましたが、今回は雨も降らず、リンゴ絞り体験や動物と触れ合う体験ができました。また、野外でお弁当を食べることもできました。

リンゴ絞り体験では、まず、農園の方からリンゴができる過程を説明していただきました。その後、リンゴを砕く機械で果肉を細かくし、最後に昔から使われている機械を使って新鮮なリンゴジュースを絞りました。みんなが砕いたリンゴから新鮮なジュースが絞り出される様子に感激しました。

動物と触れ合う時間では、たくさんの動物を間近に見ることができて、みんな歓声を上げながら動物たちと触れ合っていました。日に日に深まるフランスの秋を肌で感じながら、充実した一日を過ごすことができました。野外用のお弁当のご準備をありがとうございました。

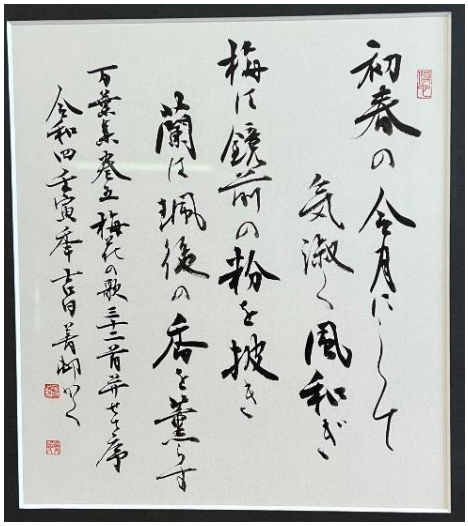
“特集”　祝　開校５０周年記念　～パリ日の「宝」～　第２部

【第５回】新元号「令和」揮毫（きごう）者による「令和」の文字

開校 50 周年を記念して、ホールに「令和」と書かれた額を展示します。【写真右】この文字は、令和4年2月24日に、本校で行われた書写の講演にいらした茂住菁邨（もずみ　せいそん）さんが揮毫（きごう）しました。揮毫とは、毛筆で字や絵をかくことを言います。

茂住さんといえば、元号が「平成」から「令和」に代わる時、当時の菅義偉（すが　よしひで）内閣官房長官（後の第99代内閣総理大臣）が手にしていた文字を書かれた方です。【写真左】

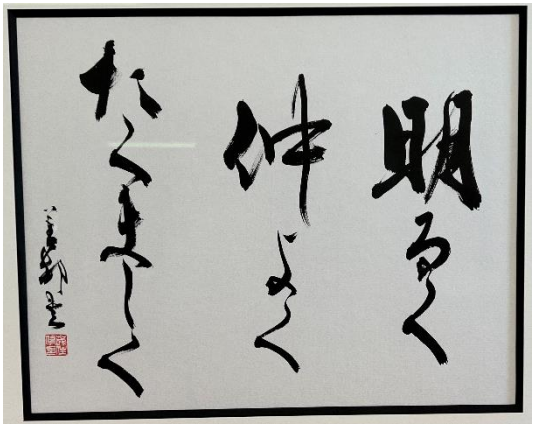
茂住さんは本名を茂住修身（おさみ）といい、内閣総理大臣や国務大臣、特命全権大使、裁判官などの辞令を書かれていた方で、国民栄誉賞として贈られる盾の題字や賞状も書かれていて、主な受賞者には、高橋尚子さん、長嶋茂雄さん、松井秀喜さん、吉田沙保里さん、羽生結弦さんなどがいます。他にも大相撲の内閣総理大臣賞の賞状を書かれています。



そんな茂住さんが、本校児童生徒に直接文字を指導してくださった際、学校への寄贈していただいた「令和」という文字は、日本最古の歌集「万葉集」にある漢文の序から採られているそうです。

「初春（しょしゅん）の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和（やわら）ぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫らす」【写真右】

また、「令和」という文字には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味や、「世の中を平和にさせる、という穏やかな印象にあふれ、世界が調和され、平和が永遠に達成されるというメッセージ」が込められているとも言われています。さらに、これまでの元号（明治、大正、昭和や平成など）が、すべて中国の古典から採られていたのに対し、「令和」は初めて日本の書籍から採られた言葉として意義があるとも言われています。



茂住さんはこの他に、50年前のパリ日創立当時からの校訓である「明るく　仲よく　たくましく」という文字も書いてくださっています。【写真左】

「令和」の時代となって5年が経ちましたが、50年を超えたパリ日のこれからの歴史は、主に「令和」の時代に築き上げられていくことでしょう。「令和」にはばたくパリ日のために書かれたこれらの書が、「令和」を知らせる揮毫者によって贈られたこと、これもまたパリ日のかけがえのない「宝」と言えるのではないでしょうか。